令和8年9月29日(火)

保護者の皆様

福津市立上西郷小学校
校 長　太 田　史 子

全国学力・学習状況調査の結果について

4月に6年生を対象に行われた全国学力・学習状況調査の結果（国語・算数）についてお知らせします。この結果は学力の全てではなく一部ですが，この結果をしっかり分析し，今後の指導に活かしていきたいと考えています。

1 全国学力・学習状況調査とは

〇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ること。
〇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てること。

2 全国学力・学習状況調査の内容・実施時期

■調査対象 第6学年
■実施期日 令和8年4月23日（全国一斉：教科調査） 4月30日（質問紙調査）
■調査内容
〇教科に関する調査【国語】【算数】
〇生活習慣や学校環境に関する質問紙調査→児童に対する調査・学校に対する調査【質問紙】

3 全国学力・学習状況調査の結果

国語

【国語の学力の状況】

国語は、全国平均を大きく上回っていました。

「読むこと」の領域や記述式問題では、文章の意図を正確に読み取り、自分の経験や考えと結び付けて書き表す問題がよくできていました。また、漢字の読み書きや構成メモから全体像を捉える基礎的な事項も定着しています。

一方で、資料や図表と文章を関連付けて捉える設問や、集めた情報から条件に沿って必要な内容を短くまとめる記述問題に課題が見られます。これは、図表と文脈の相互関係を読み解く力や、条件に合わせた要約したり、資料と文章を関係づけながら文章を書いたりする機会が不足していることが原因であると考えます。

算数

【算数の学力の状況】

算数は、全国平均を大きく上回っていました。

「数と計算」や「図形」の領域では、位取りや四捨五入、体積の計算などの基礎基本がしっかりと定着していました。また、分数の大きさの比較などで言葉や式を用いて理由を説明する記述問題においても非常に優れた成果が見られました。

一方で、基準量と比較量の関係を視覚的に捉える「テープ図（割合）」の選択問題や、複雑な条件が出る

二次元の表から必要な情報を読み取り、条件に応じて人数を求める問題に課題が見られます。これは、公式等を使っての計算ができる一方で、問題場面を図やモデルに置き換えて理解したり、情報を整理したりする活動にまだ慣れていないことが原因であると考えます。

児童質問紙（生活や学習についての意識調査　）

【質問紙より本校児童のよさと課題】

◇「自分にはよいところがある」「人の役に立つ人間になりたい」児童の割合が県や全国よりも大幅に高く、高い自己肯定感や自己有用感、将来における前向きな意識をもっている児童が多いことがうかがえます。

◇「話合う活動を通して自分の考えを深められる」「否定されない安心感がある」児童の割合が県や全国を大きく上回り、他者を尊重しながら主体的に学び合う姿勢や学習意欲の高さが育っていることがうかがえます。

◆算数において「内容がよく分かる」と感じている児童の割合が国語と比べて低く、テストで発揮されている実際の学力と比べると、自信（自己効力感）を十分に持ちきれていない様子が見られます。

◆家庭での学習時間や ICT 等を活用した探究的な学習・読書活動の継続においては個人差が見られることから、家庭と連携した学習習慣の定着を図るとともに、自ら学ぶ力を育成する取り組みの継続が求められます。

4　今後の取り組み・ご家庭へのお願い

〇学校の取り組み

◆国語の結果から見える課題は、資料や図表と文章を関連付けて読み取ることや、条件に沿って必要な情報を簡潔にまとめることです。 課題解決のために、資料と文章を関係付けて考えたり、目的や条件に応じて要約したりする活動を意図的に取り入れ、必要な情報を整理して表現する力を高められるよう指導していきます。

◆算数の結果から見える課題は、問題場面を図や表と結び付けて捉え、必要な情報を整理して考えることです。問題場面を図や式、表などに表して考えたり、複数の情報の中から必要な情報を選んで整理したりする活動を取り入れ、筋道を立てて考える力を高められるよう指導していきます。

◆児童質問紙の結果から見える課題は、学習に対する自信をさらに高めることや、家庭学習を含め、自ら進んで学ぶ習慣を身に付けることです。一人一人が学習の成果や成長を実感できるような授業づくりを進めるとともに、自分で課題を見付け、計画を立てて勉強することができるように指導していきます。

〇ご家庭へのお願い

本年度の学力調査における児童質問紙では、「人の役に立つ人間になりたい」「自分にはよいところがある」といった自尊感情の高まりが、県や全国と比べて高い傾向にありました。子どもたちが自分のよさや成長を実感し、周囲の人の役に立ちたいという前向きな気持ちをもっていることは、本校児童の大きなよさです。今後も、子どもたちの頑張りや挑戦を認め、自信につなげていけるよう、ご家庭での温かい励ましをお願いします。

一方で、家庭での学習時間や読書活動の継続については、個人差が見られます。学校でも、自分で課題を見付けたり、計画を立てたりしながら、主体的に学習に取り組む力を育てていきます。ご家庭でも、子どもたちが自分から学習に向かう習慣を身に付けられるよう、次の点についてご協力をお願いします。

・家庭学習時間の目安を「学年×10 分＋10 分」としています。毎日、家庭学習に取り組む時間を確保できるよう、お声かけをお願いします。

（例）6年生の場合　6×10＋10＝70分　※塾や家庭教師等での学習時間も含みます。

・「チャレンジウィーク」は、自分で目標や計画を立てて家庭学習に取り組むよい機会です。この取組が、日頃の家庭学習習慣につながるよう、励ましをお願いします。
・本に親しむ時間をつくり、短い時間でも継続して読書に取り組めるよう、お声かけをお願いします。
・小さな頑張りや成長を認め、達成感を味わえるようにすることで、学習に対する前向きな気持ちを育てていきましょう。
・結果だけでなく、「自分なりに考えたこと」「挑戦したこと」「最後まで取り組んだこと」「楽しんで学んだこと」など、学習の過程にも目を向け、認めたり励ましたりしていただければと思います。

これからも学校では、すべての教職員が課題を共有し、その解決に向けて力を合わせて取り組んでいきます。子どもたちの心の成長と学力の向上のために、学校・ご家庭・地域が一体となって、引き続き教育にあたっていきたいと考えています。なお、今回の学力調査の結果は、「 学力のごく一部を示すもの 」であることをご理解いただければと思います。

保護者の皆さまのご理解とご協力を、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。